



キミカ、千葉に新オフィス

研究開発・品質管理を集約

【千葉】キミカ（東京都中央区、笠原文善社長、03・3548・1941）は、千葉プラント（千葉県富津市）に隣接して新オフィスを建設する。オフィス機能を現状比3倍に、研究開発・品質試験スペースを同4倍にそれぞれ拡張。千葉プラント内に分散しているオフィスと研究開発・品質管理、福利厚生施設を集約する。7月に着工し、2022年7月に完成する予定。組織の一体感醸成や社員の協働作業を促して生産性向上を図る。

新オフィスは2階建てで、延べ床面積は3450平方メートル。建物の中央に配した内階段で1階と2階をつなぎ、

社員の回遊性を高めることで実現する。これにより新型コロナウイルス感染症など外部環境の変化に柔軟に対応できるオフィス環境づくりを進める。

スラブで床や天井を支えるポイドPC工法な化学試験エリアや機器

分析室、微生物試験室、安定性モニタリング室などで医薬品製造品質管理基準（GMP）に対応。千葉プラント外にあり、取引先と主力商品のアルギン酸の用途開発を進める「食品アプリケーショントラボ」も新オフィスに移設する。

19年秋に千葉県を襲った台風と大雨被害など自然災害を踏まえ、事業継続計画（BCP）の観点から建物全体の高さを底上げする。研究開発および品質管理ラボ、電気室を2階に配置し、非常用発電機による電源バックアップで停電に備える。耐震性能は基準の1.25倍以上にする計画。

来年7月に完成する新オフィス（イメージ）